

(2) 講 評

○委員長 それでは、議題の「講評」というところに入らせていただきます。

今、委員だけでいろいろ検討させていただきました。①、②、③、④の課題に関して、これらは全て非常に重要な課題であるので推進されたいというのが基本です。特に①、②、③は緊急性も高いので、速やかに成果を上げるべく努力していただきたいということ。それから、④の空中写真のオルソ化に関しては、先ほど委員会でも出ましたけれども、意義の主張が少し弱いのではないかと。特に、国民のお金を使うということがあるので、画像の提供というのは非常に重要な地理情報の提供である、その開発であるというあたりをもう少しちゃんとした方が研究の意義が理解されるのではないかとということがありました。

もう一つは、①、②、③、④全部含めて、他機関及び他分野、それから研究プロジェクトチーム間における連携・協調をより密にやっていただきたいということがあります。特に、まだプロデューサーというのはいらっしゃるのでしたっけ。研究プロデューサーあるいはディレクターとか、当初つくったのですよね。そのプロデューサーというのは、研究全体を見渡しながら自分の研究を位置づけて、連携しながら地理院全体としての研究を進めるという位置づけでされたはずですけども、何となく個別のプロジェクトの研究費獲得みたいな方に熱が入って、連携その他全体を見渡すという部分がちょっと弱くなっているような印象を受けたという話がありました。(注：上記の「プロデューサー」の正式名称は「研究開発コーディネータ」)

以上、基本的には進めていただくということと注意事項ですが、もう一つ、全般的に言いますと、新しいアイデアが余り出てきていなくて、実用的な部分が非常に強い、今後新たに五箇年計画も立てるということがあるので、研究の具体的な課題としても新たな研究開発みたいなのが必要ではないかということが1つ。

それから、地理院から多量の情報が提供されています。それで多くのアクセスがあるとは聞いていますが、使い勝手が必ずしもうまくいっていないといたしますか、もう少し使い勝手がいい形で提供されるような工夫ができないかという意見が出されていますので、その辺、公開の仕方も考慮されるようにという要望がありました。

今回のテーマに関してはそんなところです。

以上が講評となります。